

浮世絵にみる旧東海道と戸塚宿

解説の巻

江戸時代の東海道には五十三次と呼び親しまれている宿場が置かれており、その一つが慶長九（一六〇四）年に成立した戸塚宿です。ここは東海道の起点である江戸日本橋から一〇里半（約四二キロメートル）の距離にあり、朝に江戸を発った旅人が最初に宿泊する宿場として賑いました。この戸塚宿の歴史を再認識できる、旧東海道に關連する古地図や浮世絵を、戸塚区総合庁舎に連絡する地下通路にパネルで再現して展示しています。



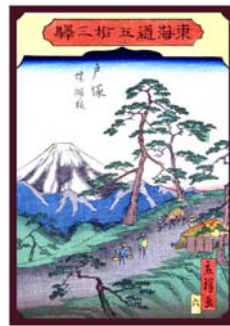
① 東海道分間絵図
遠近道印著 菱川師宣筆

「分間（ぶんけん）」とは測量の意味で、測量に基づいて、東海道の距離を縮尺しています。地図製作者として評価を得ていた遠近道印（おちこちどういん）が作成した正確な「分間図」を基にして、菱川師宣が街道の情景を描いています。縮尺が正確で情報満載の案内記であることも、見て楽しめる街道絵図として好評を博し、初版年中に早くも改修版が出され、元禄一六（一七〇三）年、正徳元（一七一）年と繰り返し再版されています。

国立国会図書館所蔵

② 東海道五拾三駅 六 戸塚 焼餅坂

二代広重



横浜市歴史博物館所蔵

両側に松並木が続く焼餅坂の情景を手前に、遠景に富士山を望む構図。風景や往来する旅人が穏やかに描かれている。

③ 五十三次名所図会

六 戸塚 山道より 不二眺望 初代広重

構図が縦（たて）になっていることから、一般に豎絵東海道と呼ばれるシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。坂道の東海道を中央部に配し、ほぼ上下に分割した構成になっている。



横浜市歴史博物館所蔵

④ 五十三次 戸塚

初代広重



横浜市歴史博物館所蔵

人物を主体とした構成から、人物東海道と呼ばれるシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。東海道の松並木の手前に旅姿の女性三人を置き、背後の富士山の一部を手の前の松の幹で隠すことにより遠近感を出している。

⑤ 東海道五十三次の内 戸塚駅 早野勘平

豊国

役者を題材にしていることから、役者東海道と呼ばれるシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。前面に仮名手本忠臣蔵の早野勘平を、背景には柏尾川に沿った東海道と戸塚宿を配置している。



国立国会図書館所蔵

早野勘平を演じている役者は市川團十郎である。

